

Japanese Literature — 21



井伏鱒二集

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端 康成

三島由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜夫

(五十音順)

学習研究社

井伏鱒二文学紀行

広島県加茂町 著者生家付近の川



谷川というものは、減茶ザ
茶な急流となつて流れ去つ
たり、意外なところで大き
な淀みをつくっているもの
らしい。山椒魚は岩屋の中
入口から、谷川の大きな淀
みを眺めることができた。

〔山椒魚〕

下 私の母は育児日誌などつけなかつた。したがって私の赤んぼであつたときのことを知る参考品はない。また母にたずねても、たいてい忘れてしまつたというだろう。私もたずねたくない。

(「雞肋集」)

広島県深安郡加茂町粟根
著者の生家付近の風景

左 コマツさんが障子をあけて廊下に出ると彼も隣の障子をあけ、「これはよい眺めの景色ですなあ」と歎声をもらした。廊下に出て見ると手すりの下が直ちに真青な色の海である。

(「集金旅行」)
広島県尾道市より尾道水道を望む 対岸は向島







瀬戸内海には、不思議に周囲七里の島がた
くさんある。因ノ島も周囲七里である。

広島県・因ノ島の浜(「因ノ島」)。







引潮であつたが、ときどき波しぶきが降りかかった。それに私の釣っている正面を岩ツグミがしげしげ横切つて、右手の一ばん大きな岩まで飛んで行つたり引返したりするので氣になつた。

〔取材旅行〕

高知県室戸岬に打ち寄せる波

一月八日

海辺警備の予行演習に出た。

場所は堤防の松原で、この松原は潮害保安林になつていて伐木禁止の立札がある。

地主の防空班長の話では、明治二十五年に山のような浪がこの堤防を越え、村に流れ込んだといふことである。

〔多甚古村〕

多甚古村のモデルとなつた徳島市郊外の田園より海辺の松林を望む



……目もくらむほど強烈な光の球が見えた。同
時に、真暗闇になって何も見えなくなった。

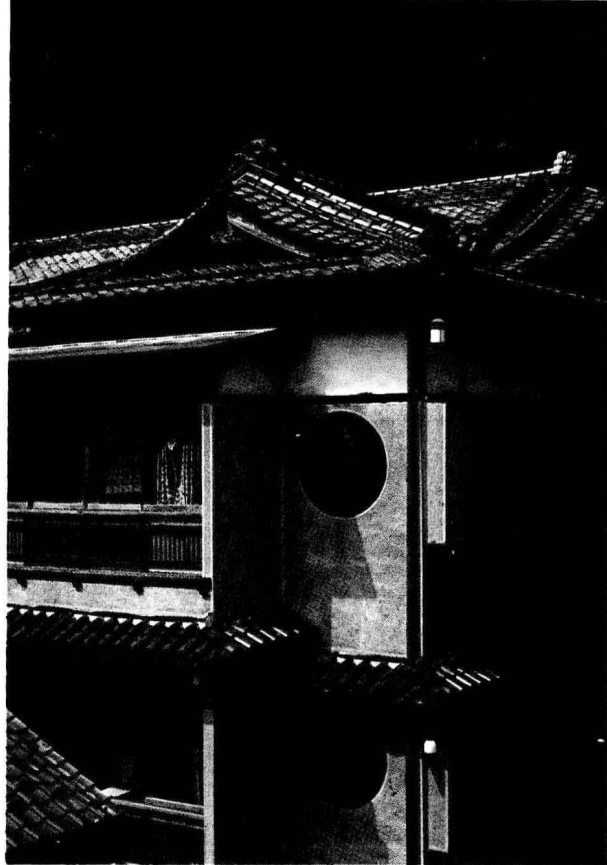
広島市・原爆ドーム（黒い山）

此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com



THE FUTURE OF THE
STADIUM IS IN THE
HANDS OF THE
FUTURE GENERATION





大正池に来れば

池の堤のさむさかな

今年は鴨がたくさんいる

堤に雉が一羽いる

.....

（「冬の池畔」）

山梨県大正池の夕景

この下部は谷川沿いのところである。つい最近に町制が布かれたが商店の並んでいる範囲は幾らもない。一見、谿谷のなかの古めかしい宿場といった感じである。（「下部の湯」）

山梨県下部温泉 井伏氏の常宿



伊豆三宅島の雄山^{みやま}



三宅島はその地形が大体において鹽を伏せたような形で、更に
その上に摺鉢を伏せたような恰好である。 (「御神火」)



山梨県甲府付近の釜無川（「駅前旅館」「甲州の話」）